

転居された方は事務局 (svcf-admin@svcf.jp) まで転居先をお知らせください

## 第 94 回院内集会 “漁業の現場” からの訴え 報告

7 月 16 日 (木) 参議院議員会館 102 号室で行われた第 94 回院内集会では、講師に福島県漁協連合会の柳内孝之理事を迎えて 13 の港を有する福島県漁協連合会としての総意や見解をお話いただきました。



講演は、35 ページにわたるパワーポイント資料 “漁業の現場” からの訴え (<http://svcf.jp/archives/7498>) を映写しながら進められました。また、IWJ のカメラが入り、動画が IWJ ホームページにアップされています (<https://iwj.co.jp/wj/open/archives/478240>) ので、ご覧ください。

東日本大震災で原子力災害が発生し、福島県は放射性物質の拡散に見舞われました。最初の操業自粛というのは県漁連が決定し組合員に通知をしましたが、その時点では空気中の放射性物質についてであり、当初は海上・海中についてはありませんでした。現在は、海洋汚染について安全性の確認が取れるまで、段階を踏んで慎重に協議し、試験操業のみを実施しているとのこと。安全が確認されている魚種 (令和 2 年 3 月時点で出荷制限のかかる魚種はなくなりました) を対象に小規模な操業と販売を試験的に行い、出荷先での評価調査をして漁業の再開に向けてデータをとっています。試験操業は、福島第一原

発の半径 10km 圏内を除く福島県沖で行われています。

事故当時、汚染水は北から南への寒流にのり南に流れていったため、原発から南の海域に放射性物質が溜まったために、いわき地区については相馬双葉地区より 1 年遅れて試験操業を開始しました。

福島の漁業では、風評被害の払拭に向けての取り組みを重視しています。2 万件 (毎週 200 検体前後) ものモニタリング検査により安全が確認された魚種のみを選定していますが、風評被害により買い受け能力が回復していないという事実があります。消費者が買い控えるというより、仲買人が「風評被害があるので消費者が買わないだろう」という憶測のもと取引が縮小していることと、漁業者数自体も減っているのと、回復の見込みが立ちません。

ALPS 処理水の海洋放出については、風評被害がさらに起こる可能性があるため、慎重にならざるを得ません。海洋放出される場合、年間 22 兆 Bq の放出、約 33 年かかる (放出量約 234 万 m<sup>3</sup>) 見込みとなり、福島の海は事故前よりも状況が悪化すること必至となります。多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会報告書によると、海洋放出ありきであり、法改正を視野に入れた検討がないことなどから、疑念を払拭できずにいます。この度のコロナ騒動でも、「日本人は慎重、政府の補償などは不十分であること」が見て取れます。福島県漁協としては、汚染水の海洋放出については反対を表明、安心安全なものを消費者に届けたい、そのためには「福島の海を再生するしかない、今以上の浄化を目指して行きたい」と考えているとのことでした。

## 会員からの投稿

[SVCF 通信 123 号\(6月号\)](#)への寄稿「行動隊発足→現在→今後の課題を思考する」①～③の続編です。

### 「コロナ禍と行動隊の原点」

行動隊員 満田正

#### ④ 行動隊の今後

行動隊員、中島賢一郎さんには東京電力行うイチエフ廃炉作業のウォッチャーを継続して頂いております。私はまだこのレポートを充分把握せず結論めいたことは言えませんが、このレポートではイチエフ廃炉作業が必ずしも順調とは言えず、むしろ試行錯誤の段階だと伝えていると読み取ります。それならば、なおのことあらゆる分野での経験を積んできた行動隊員の能力を今こそ発揮すべきことではないでしょうか。

福島原発行動隊は今なおSVCF (Skilled Veterans Corps for Fukushima)との名称を掲げて「定年を終えた熟練技術者の行動組織」として今なおその精神に変わりはないと見られています。

私の第1の問題提起は、SVCFが再度東京電力と向き合い、現在廃炉作業に従事している技術者・作業者の若者に代わるような人材を提供出来ることを主張すべきではないでしょうか。もちろん、必要な人材の準備は急がねばなりません。

福島原発行動隊のメンバー構成については知る立場にはないのですが、再度その構成メンバーの経験、スキルなどを精査する必要があると考えます。

私は原子力関係を専門とする立場ではありませんが、物理学を専攻し、東京電力火力発電所廃棄物処理マニフェストシステムなど大規模プロジェクトの経験は少ない方ではありません。イチエフ廃炉は大プロジェクトでありプロジェクト・マネジメントの知識は必要です。専攻の立場からすれば、多くの原子力専攻技術者との接触も多く部門外とは言え、廃炉プロジェクトの一翼を担えるものと思っています。

東京電力がイチエフ廃炉プロジェクト・マネジメントを必要とする場合に、もしくはSVCFが廃炉プロジェクトを立ち上げる場合のメンバーの一人として役立つことが出来ます。

東京電力のイチエフ廃炉プロジェクトは既にイチエフ事故以来9年間の実績を積んできています。そのような作業実績を積んできたクルーに対して、突然に参加申し入れは迷惑にも考えられますが、それでもイチエフ廃炉作業が順調に進んでいけばのことであって、現況では決して順調ではないと思える時、この配慮は必要でないと思えるものです。

また、たとえ順調であったとしても故山田SVCF理事長が生前そのレポートで予想していたように、廃炉作業では今後技術者・作業者の需要が急速に増えていきます。若者の被ばくリスクを軽減するためにも、若者が中心の廃炉技術者・作業者に代わる60歳以上シニア代替要員が必要です。しかも、若者が中心のクルーであれば、一人でも一日でも早く、彼らの被ばくリスクを軽減するための手段を講じるべきです。福島原発行動隊にはその役割を果たすべく、最も近い位置にいることは明らかです。

今まで東京電力に対して、若者に代わるシニア交代要員600人を抱えた、SVCFの存在を訴えて来た努力を否定するものではありません。むしろその努力の結果として、イチエフ・ウォッチャーの存在があり、放射能測定研修会、過去2回のイチエフ視察のあったことには敬服いたします。

それ故に、再度の交渉力をイチエフ廃炉プロジェクトにSVCFメンバーを送り込めるように発揮するべきではと考えます。

同時にSVCF内部にはイチエフ廃炉プロジェクトへの参加を前提に行動隊メンバーの再編を提案します。

その1はイチエフウォッチャー学習会が良いと思います。

その2は行動隊メンバー600人の意識調査を行うべきです。コロナ禍で自粛ムードの高い今こそ、こうした準備を行うためには絶好のタイミングであると思います。

## コロナの猛威にめげず

### 暑中お見舞い申し上げます

安藤博

行動隊の毎週金曜日定例の事務連絡は、この春以来専らテレビ会議。福島行きは、しばらく見合わせです。感染者ゼロの村などでは「コロナ炎上の首都圏からの侵入」を怖がっている人もいと、現地の活動仲間から聞いたので。

わが家の生活も、閉じこもり型の変化が。やたらにテレビを観ています。真っ昼間14:30からの『オスマン帝国外伝 愛と欲望のハーレム』のような、かつては縁がなかったトルコものまで。

朝昼晩の三食ともに自宅になり、「毎日作ってもらって食べるだけ」というのがいかにも気が引けて、緊急事態宣言のころから食後の皿洗いをするように。なかなかつらいものであることをいまさらながら思い知りました。朝、昼はまあいいとして、夕食後、ビールでふわっとなっているようなときに食卓を立てて洗い場に向かうのは「えいっ」と気合でも入れなければならないほどの難事です。

コロナが去って福島行きも復活するようになったら、この皿洗いの“失地回復”をしたいところです。が、既に家人は「皿洗いは旦那の仕事」と決めてしまっていて、コロナ後のNew Normalとなりそうです。

### 「微力ながら」

高津戸厚

ある原子力セミナーで講師の大学教授が「リスクを適切に判断するには科学的な事実(情報)を集め、それに基づいて論理的・客観的に自分で考えることが重要である」と述べられました。

そこから「情報を集め、自分なりに思考することが大切だ」との思いに至りました。

コロナウイルス禍の真ただ中、国(国会議員、公務員)・専門家・国民の言動等の情報で、私はいろいろ勉強させてもらっています。

そこで、「原発事故の後始末」に置き換えて、福島復興事業と廃炉事業を思考してみました。

いろいろ思考した私の結論は「優先して、原発事

故で苦しんでいる人々の苦しみを少しでも減らす策をできるだけ早く講じるべきだ」と思っています。

私は高級なペンを持っていませんが、微力ながら、できるだけ、「提案・おもしろい」を発信していきたいと思っています。

### 「コロナ禍でもっぱら“nora作業”」

Noraこと杉山隆保

“nora作業”と言うのは畑で収穫した作物をその場(畑)で調理し、食べて、遊ぶことです。

畑は二か所借りていまして大きな場所は耕作放棄地を無料で借りています。玉ねぎ栽培が主力の方は有料で借りています。

4月21日に自ら「ロックダウン」して上京しない生活に入りました。畑で出逢うのはキジ、ムクドリなどの野鳥とヘビです。ムクドリは耕うん機で畑を耕すとすぐに舞い降りてきて我が家のミズを食べてしまいます。

年齢を重ねましたので耕作地を少なくしようとバーベキュースペースを確保しました。まず手掛けたのは昨年の台風19号で破壊された納屋と“厨房”と称していた建屋の修復。

畑の主力は「いいたて雪っ娘」というカボチャです。福島県飯舘村の菅野元一さんが産みの親のブランド品です。これまでは東京の仲間やお世話になった方々に差し上げてきました。この片隅でキュウリ5本、早生丸茄子、米茄子、筑陽、庄屋大長の茄子8本を植えて収穫しました。

今年は上京しないので収穫した野菜を家で調理しました。お陰さまでキュウリ料理のレパートリーは広がりました。甘唐辛子2本も植えてあり、酒のつまみとなりました。

この長かった梅雨が今年最大の難関でした、ワイン用葡萄樹の下、畑一面の草刈りを行った草の処分が出来なかったのです。例年ですと刈った草を干してから燃やして灰にし、畑に撒くのです。これが行えず野積みの状態です。

ようやく暑い夏になり、草の処理に取り組んでいます。朝、5時に畑に出掛け、正午まで働くとヘトヘトに疲れます。“水風呂”で体を冷やしてから飲むビールは最高です。

## 「コロナと温泉とおやすみなさい」

中島賢一郎

朝、イチエフ廃炉作業に備えてトレーニング。速歩は酷暑になってから半分にして3キロを30分。筋トレは減らさず各種30回20分。大汗をかいて白岩の湯へザップーン。トレーニングが自己目的化してしまっている！



昼めしは絶品麻辣豆腐を作ろう。カミさんも食べるっていうから唐辛子と辣油は控えめにしなきゃ。ブー。

午後はレポート。3号機圧力抑制室内の水のサンプリングか。この資料、全く分かりにくい！東京電力、日本語教室開いた方がいいんじゃないか。

夕方から至福の番台。今日二度目の白岩の湯。もう白岩の湯愛だな。東京から来たバイクライダーさん、伊豆市の指示とはいえ汗をお流しただけでござめんなさい。コロナが収まったらまたお出でください。

お、9時か。風呂場の片付けと戸締りに行ってこよう…女湯はと…あれ！また雨ガエルが湯船で泳いでる。Mちゃん(毎晩ラストにお母さんと見え、自分が最後の「おやすみなさい」を言う5歳の女の子)、また網戸の入っていない方の窓を開けたな。

雄ガエル、いいかげんに上がらないとのぼせるぞ。

## 「コロナ対策とは高齢者対策、高齢者ケア」

家森健

「日本人の95%に集団免疫が成立！」「外出自粛など不要」、これは京都大学大学院特定教授上久保靖彦氏が、本年3月末頃から新型コロナウイルスの解析、分析実証したことによる結論です。

上久保氏とは5年前からの付き合いながら、この解説に当初は疑問を持つも3月から7月にかけて

都内を積極的外出散歩した体験からも、私自身も既に免疫ができていると素人ながら確信するに至った。

いわゆるコロナ禍で、今後も積極的に都内を外出散歩で免疫力の維持に努めたい。

高齢者諸君、外出で免疫力維持に努めましょう。

## 【スケジュール】

下記の会議・集会はどなたでも参加できます。  
**(スケジュールは新型コロナウイルス感染拡大防止のため変更となることがあります)**

<第95回院内集会> 以下は予定です。

福島第一原子力発電所の廃炉作業の進捗状況

9月24日(木)11~13時

会場：参議院議員会館（地下鉄有楽町線永田町駅国会方面改札徒歩3分、千代田線国会議事堂前駅徒歩5分）  
会議室

講師：東京電力、原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉支援部門（NDF）

<連絡会議>

以下の各金曜日10:30から。

8月21日、28日

9月4日、11日、18日、25日

会場は、いずれも行動隊淡路町事務所（下図 SVCF 静和ビル1-A）です

<SVCF通信126号>

9月16日(水)発行

